

単元のねらい



Unit 2では、生徒にとって身近な日本の食文化を題材として取り上げている。Unitのタイトルとなっている、単元を貫く問い「Unit Question」を通じて、日本各地や世界のご当地グルメの歴史・広がりなどについて理解を深めることが期待される。

扉ページに記載している料理の写真は、それぞれの国の発祥であるか、またその料理が他の国にもたらされる過程でどのようなアレンジが加えられたかなどについて、オーラルイントロダクションで触れながら扱うとよい。各料理の詳細は題材情報を参照のこと。

この資料は、令和7年度中学校教科書の内容解説資料として、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

言語材料

when、if、becauseなどの副詞節を導く従位接続詞が導入され、「時」「条件」「原因・理由」について述べたり、やり取りを行ったりすることができるようになる。また、名詞節を導く従位接続詞thatを学ぶことにより、これまでのSVO（名詞）から発展し、より複雑な内容を説明することができるようになる。発表ややり取りの言語活動を通じて、「発表する」「仮定する」「理由を述べる」「意見を言う」など新出の接続詞を含む文の使用場面や働きを理解させたい。

Previewでは、以下の通り言語材料が導入されている。この時点で文構造や意味を完全に理解させる必要はない。

- When I was going to Jun's house yesterday, I found a ramen restaurant.
- If you're free next Sunday, let's go together.
- I think that you'll like their ramen.

Activity ~ Unit Activity の流れ

Unit 2では、「イチオシのご当地グルメをALTの先生に紹介する」という活動をゴールとし、紹介したい食べ物やその特徴についての考えを積み上げたり、それらの情報を伝えるための語句・表現を身につける流れとなっている。

| パート | 活動内容 *表現例については、各パートの文法・語法解説を参照。 |
|--------------------------------|---|
| Part 1 Activity 1 | あなたが特に好きな食べ物は何ですか。本文を参考にして言いましょう。 |
| Part 2 Activity 2 | Activity 1 で選んだ食べ物は、どんな食べ方ができますか。本文を参考にしてペアで伝え合いましょう。 |
| Read and Think 1 Activity 3 | Activity 1 で選んだ食べ物について、入っている具材やよく食べる季節について、本文を参考にして言いましょう。 |
| Read and Think 2 Activity 4 | Activity 1 で選んだ食べ物ほどのくらい人気がありますか。本文を参考にして書きましよう。 |
| Unit Activity | イチオシのご当地グルメを紹介しよう ALTの先生がイチオシのご当地グルメを知りたがっています。地元で食べられている料理を選んで、紹介する記事を書きましよう。 |



訳例

私はラーメン、特に豚骨ラーメンが好きです。ラーメン屋さんに行くと、いつも豚骨ラーメンを注文します。私のいちばん好きなトッピングはコーンです。実際、日本にはさまざまなラーメンの味があります。醤油、塩、味噌、豚骨などです。イギリスに住んでいたときには味噌ラーメンのことを知りませんでした。味噌ラーメンを食べてみたいです。

解答・解説 (Practice)

Practice

解答

- ① When I have free time, I often listen to music.
- ② When I study English, I use this dictionary.
- ③ (例) When I hear the word "ramen," I imagine salt ramen.

解説

Practice ③は、Key Sentences を活用して行う言語活動。When I hear the word "ramen," I imagine *Onomichi* ramen. など、味だけでなくその地域のご当地ラーメンなどについて言及することも想定される。

発音

音調 (数字は本文の行数)

説明文なので、全体的には「基本的な音調パターン」になっている。

- 1 *tonkotsu* ramen では、特に「豚骨」に焦点を当てているので、はじめの語の“ko”をいちばん強く読んでいく。
- 4-5 *soy sauce, salt, miso, tonkotsu, and so on.* のような「列挙」の基本的なピッチパターンは、A↗, B↗, C↗, and D↘となる。
- 5 *and so on* の読み方は“so”を強く・高く読む。

語句の発音 (数字は本文の行数)

- 3 アメリカ発音では、*topping* のはじめの部分は「ト」ではなく、「タ」。また、促音(つまる音)はないので、「トッピング」ではなく「タッピング」となる。
- 4 *various, flavor(s)* のはじめの子音[v]や[f]は、上歯を下唇に軽く当てて声や息を漏らして発音する。日本語の「ブ」や「フ」にならないように注意する。
- 6 *the U.K.* のような頭文字語 (acronym) は、最後の文字に第一アクセントを置くのが基本。

文法・語法解説

Key Sentences 5

When I go to a ramen restaurant, I order *tonkotsu* ramen.
(I order *tonkotsu* ramen when I go to a ramen restaurant.)

① 従属接続詞

まず文法的な概念を整理しておく、接続詞は *and, but, or* に代表される「等位接続詞」と *when, if, because, that* などの「従属接続詞」に大別される。等位接続詞によって導入される「節 (=ひと組みの主語と動詞を含む語のかたまり)」を「等位節」、従属接続詞によって導かれる節を「従属節」と呼ぶ。また、等位節を含む「文 (=大文字ではじまってピリオドなどで終わる一連の語のまとまり)」を「重文」、従属節を含む文を「複文」と呼ぶ。複文において従属節でない方の節は「主節」という。言うまでもなく、生徒にはこれらの用語を説明する必要はない。

本Unitでは従属接続詞 *when, if, because, that* を用いた複文を学習する。これまでは主語と動詞を1つだけ含む「単文」か、せいぜい *and* や *but* を使った「重文」に留まっていたが、従属接続詞を使いこなすことで、「もし…ならば」、「なぜなら…」というように、理由や条件などを付けながら自分の考えや感じたことを言えるようになる。

② 接続詞 when

従属接続詞 *when* によって導かれる従属節を「時の副詞節」と呼ぶ。副詞 *yesterday* や前置詞句 *on Monday* などと同じように、主節の出来事がいつ起きるかを表す。他の接続詞と共通する留意点は Grammar for Communication 2 で解説するが、ここでは以下の2点に触れておく。

(1) when 節の中の時制

本文1-2行目では *when* 節と主節はともに現在形であり、動詞の時制に関する問題は生じないが、注意を要するのは時の副詞節で未来の事柄を表す場合である。

例えば「用意ができたなら教えてください」は、(a)、(b)ではなく(c)となる。

- (a) *Tell me when you were ready.
- (b) *Tell me when you will be ready.
- (c) Tell me when you are ready.

生徒は、日本語の「用意ができたなら」という言い方に影響されて(a)のように言ったり、「用意ができる」のが未来の出来事であることを意識して(b)のように言った

りすることがあるだろう。しかし、これらはいずれも誤用である。英語では「時や条件の副詞節では未来の出来事も現在形で表す」という原則があるため、正しいのは(c)である。

過去形における「時制の一致」については、本文5-6行目の解説を参照。

(2) when 節の位置

when 節は主節の前にも後ろにも来る。文脈によってどちらか一方が好まれる場合もあるが、生徒には、まずは主節の前にも後ろにも生じ得ることを示しておけばよい(両者の解釈上の違いについては、Grammar for Communication 2 の解説を参照)。

加えて、Key Sentences で示したように *when* 節が前に来る場合は節の最後にコンマを打つが、*when* 節が後ろの場合は不要である点にも注意したい。後者の場合、接続詞 *when* が主節と従属節の間に来ることによって節の境界が明確になるが、前者では *when* が文頭に来るため、*when* 節と主節の境界があいまいになる。コンマを打つことで、節の区切りがはっきりするのである。

本文 (数字は本文の行数)

1 I like ramen, especially *tonkotsu* ramen.

Activity 1

(1) especially

especially は「特に、とりわけ」という意味を表す副詞である。ここでは、「私はラーメンが好きです」と言ったあとでその中でも特に豚骨ラーメンが好きであることを表している。Activity 1 では、この文のように〈一般的な名称、*especially* + より具体的な名称〉の形で自分の好きな食べ物について表現できるようにしたい。

このほか、*especially* は *Tonkotsu ramen is especially good.* 「豚骨ラーメンが特においしいです」のように形容詞の前でも用いられる。ただし、**Especially, tonkotsu ramen is good.* のように文頭では用いられないので注意が必要である。

(2) 料理の名称

ramen は不可算名詞であり、**a ramen* のように不定冠詞を伴わないので注意。ほかには、*spaghetti* や *curry and rice* のように「1人前」の量が自由に調節できる料理は不可算扱いとなる。一方で *hamburger* や *hot dog* のように「1個、2個」と数えられる料理は可算名詞である。この場合、*I love hamburgers, especially cheese hamburgers.* のように複数形で表現する。

1-2 When I go to a ramen restaurant, I always order *tonkotsu* ramen.

when節の中の時制およびwhen節の位置については、先述の文法事項解説を参照のこと。

ここでは、ramen restaurantに付く冠詞にも注目したい。もし定冠詞theが用いられていれば、ある特定の店で豚骨ラーメンを注文するという意味になる。しかし、ここでは不定冠詞を用いて**a ramen restaurant**と表されていることから、アナはどのラーメン店に入っても必ず豚骨ラーメンを注文する（ほど豚骨ラーメンが好きである）ことがわかる。

3-5 Actually, there are various ramen flavors in Japan: soy sauce, salt, *miso*, *tonkotsu*, and so on.

(1) actually

「実は、本当は」という意味の副詞であるが、会話では情報を追加するつなぎ表現として用いられることがある。

(2) flavors

食品の味を表す語で、特に香りを含めた風味を指す。「…味の」と言うときには、ice cream with a mint flavor「ミント味のアイス」やcoffee with a chocolate flavor「チョコレート風味のコーヒー」のように前置詞withを用いる。

(3) コロン

コロン(:)は、発言者と発言内容を区切る記号としてはBook 1から用いている。ここでは例などを示す用法で、日本語にすると「すなわち」や「つまり」に相当する。この場合は「日本にはさまざまなラーメンの味がある」という文のあとに、具体的な内容としていくつかの味を続けて述べている。

(4) soy sauce, salt, *miso*, *tonkotsu*

味噌と豚骨は、英語圏でもそのまま*miso*、*tonkotsu*としてラーメンの味付けの呼称となっている点に注目したい。

5-6 I didn't know about *miso* ramen when I lived in the U.K.

(1) know about

「(見たり聞いたりして間接的に)知っている」という意味。したがって、know about *miso* ramenは「味噌味のラーメンというものが存在することを知っている」ことを表している。他方で、他動詞のknowは「(体験するなどして直接的に)知っている」ことを含意するため、もしknow *miso* ramenと表現すれば、「味噌ラーメンを実際に食べたことがあり、それがどのようなもの

かわかっている」というニュアンスになる。

(2) 時制の一致

日本語では「イギリスに住んで[いる/いた]ときには味噌ラーメンのことを知りませんでした」のように、時の副詞節の中で現在形または過去を使って過去の状態や出来事を表すことができる。しかし英語では、この例のように主節が過去形的时候には**when節でもつねに過去形が用いられる**。これを「時制の一致」と呼ぶ。なお、本文の日本語訳では混乱が生じないように「イギリスに住んでいたときには」と過去形を使って訳している。未来の出来事を表す場合の動詞の時制については、先述の文法事項解説を参照のこと。

このページのQRコンテンツはこちら



Part 2 [p.21]

本文の場面・状況

純が今度いっしょにラーメン店に行こうと誘うためにアナに話しかけている。

解答・解説 (Practice)

Practice

解答

- ① If you want to play soccer, you can play at Midori Sport Park.
- ② If you go to the Midori Zoo, you can see many animals.
- ③ (例) If it's sunny this weekend, I'll play tennis. / If it's rainy this weekend, I'll read books.

解説

③未来(今週末の天気)についての話だが、先述のwhen、また後述のifの文法事項解説で述べている通り、条件の副詞節は現在形で表す。*If it will be sunny this weekend, とはしない。

訳例

- 純： いいスピーチだったよ、アナ。ぼくもラーメンが大好きなんだ。ぼくの家近くがいい札幌ラーメンの店があるよ。おいしい味噌ラーメンで評判なんだ。
- アナ： 本当？ いつか味噌ラーメンを食べてみたい。
- 純： 理子とエディとぼくで今度の日曜日にその店に行くんだ。もし時間があったらぼくたちと行こうよ。
- アナ： 喜んで！
- 純： お好みでラーメンに卵やバターやコーンを追加できるよ。

発音

音調 (数字は本文の行数)

- 1 Nice speech, Anna. の最後のAnnaは呼びかけで、最後のピッチを上げて読む。
- 3 deliciousは「すごくおいしい味噌ラーメン」という意味で、「すごくおいしい」の部分を強調してdeliciousを強く読んでいる。
- 6 If you have time,の最後は、まだ文の途中なので、ピッチを下げずにほんの少し上げて読むのが基本。
- 8 I'd love to!はloveをいちばん強く読む。
- 9 egg, butter, or cornのような句では、基本的なピッチパターンはA↗, B↗, or C↘となる。

語句の発音 (数字は本文の行数)

- 3 deliciousは、カタカナ英語によくある「デリシャス」ではなく、「ディリシャス」のように“li”をいちばん強く発音する。
- 9 butterの“tt”は、アメリカ発音では「ラ行音」のように発音するが、頻繁に出てくるのでしっかり練習させたい。

Key Sentences 6

If you have time, you can come.
(You can come if you have time.)

① 従属接続詞 if

(1) ifの意味

従属接続詞ifは、「もし…ならば」と条件を表す副詞節 (=条件節) を導入する。If you have timeは「あなたに時間があるかどうかかわからないが、もしあるならば」という気持ちを表しており、いっしょに食事に行く条件を限定している。なお、このようなif節では通常、**when**節と同様に未来の内容であっても**will**を入れず、**現在時制**を用いる。

(2) if節の位置

if節を含む従属節は、文法的には主節の前後どちらに置くこともできるが、特に文脈上の必要性がなければif節を前に置くほうが普通であると指導しておいてよいであろう。まずは限定条件を提示してから、その場合にどうするか、どうなるかを示すほうが普通だからである。ただし、本文9-10行目についての解説(3)やGrammar for Communication 2の解説も参照のこと。

② whenとif

条件を表すif節は、時にwhen節で言い換えられることがあるが、意味が全く同じになるわけではない。未来の事柄に関して確定的であればwhenを用いるが、確定的でなければifを用いる。例えば、「メグが来たら私を呼んで下さい」という場合、メグが来ることが予定されているならば**When Meg comes, please call me.**といい、メグが来るかどうか不確定ならば**If Meg comes, please call me.**という。他方で、恒常的あるいは必然的な事柄についてはwhenとifのいずれも用いられる (e.g. When [If] snow melts, it becomes water. 「雪が溶けると水になる」)。

ただし、こうしたニュアンスの違いを生徒に理解させるのは難しいので、最初の導入の段階では、ifは「もし…ならば」、whenは「…する [した] ときに」という日本語の訳語に基づいた区別を原則にしておいたほうが、生徒は混乱しないだろう。

③ 仮定法のifとの違いについて

条件節の出来事が実現する可能性のある場合にはIf it rains tomorrow, the game will be cancelled. 「明日雨が降ったら試合は中止です」のように動詞は直説法で表され、実現可能性のない場合はIf I were a

millionaire, I could buy this house. 「自分が百万長者だったらこの家を買えるのに」のように仮定法で表される。直説法を用いるか仮定法を用いるかは、話し手の主観的な判断によって決まる。ここで扱うのは、if節の中が直説法現在 (普通の現在形) の場合である。

生徒に表現活動をさせると、*If I am an adult, I can drive a car. 「もし大人だったら車が運転できるのに」のように本来仮定法で表すべき内容を直説法で表すことも起こりえるだろう。仮定法を学ぶのはBook 3 Unit 6なので、現段階で直説法と仮定法を比較しながら指導することは想定していない。ただし、指導の際には仮定法との区別を意識しつつ、現実味のない「もし…」の言い方を3年生で習うことには触れておいてよい。

本文 (数字は本文の行数)

3 It's famous for delicious *miso* ramen.

形容詞famous「有名な」はUnit 1において名詞を修飾する用法 (the famous Merlion) として出てきた。ここでは前置詞forをとまって「…で有名な」となる。Our town is famous for old temples. 「私たちの町は古いお寺で有名だ」などのように表現活動で応用できるので、(be famous for) の形で覚えておきたい。

4 Really? I want to try *miso* ramen sometime.

副詞sometimeが初出である。未来または過去のはっきりしない時を指して「いつか、ある時」を表す。文末に現れることが多く、I'll call you sometime next week. 「来週のどこかで電話します」のように時の幅を設定する語句とともに用いられることもある。

よく似た副詞にsometimesがあるが (Book 1 Unit 5で既出)、こちらは「ときどき」を表す頻度の副詞で、助動詞やbe動詞の後ろ、一般動詞の前に現れる。また2語でsome timeと綴ると名詞句として扱われ、他の名詞と同じように目的語の位置に現れる (e.g. I need some time 「少し時間が必要だ」)。

5 Riko, Eddy, and I will go to the restaurant this Sunday.

(1) Riko, Eddy, and I

等位接続詞のandの用法について2点注意しておきたい。第1に、3つ以上の要素を並列させるときにはandは最後の要素の直前にのみ現れる。したがって、「理子とエディとアナとぼく」という場合にはRiko, Eddy, Anna, and Iとなる。

第2に、andを用いた等位接続では通例「二人称→三人称→一人称」の順番で並列させる。したがって、並列要素に「あなた」が加わる場合には、you, Riko, and I のようになる。

なお、いずれの場合もandの直前のコンマ (,) は省略可能なので、**Riko, Eddy and I**としても間違いではない。

(2) this Sunday

「今度の日曜日」というときには、曜日にthis、nextをとまって副詞的にthis Sundayあるいはnext Sundayと言うのが一般的。前置詞onを用いたon this Sundayはまれに見られるが、*on next Sundayとはしない。

また、thisやnextを伴わないon Sundayは現在時制で習慣的に「日曜日はいつも」を表すほか、過去時制で「この前の日曜日」、未来を表す文で「今度の日曜日」の意味で用いることもできるので、ここでon Sundayとすることも可能である。

なお、複数名を用いたon Sundaysは「毎週日曜日に」を表し、単数形のon Sundayよりも習慣性を強調した言い方である。

8 I'd love to!

I'd はI wouldの短縮形で、wouldは本来willの過去形。would love toで「…したい (のですが)」という意味になる。ただし、ここではI'd love to!を「喜んで!」という慣用表現として扱っておけばよい。

would love toと似た表現としてwould like toがあり、Book 1 Real Life English 4でWhat would you like to ...?の形で既出。would love toも「…したい (のですが)」という意味を表すが、would love toの方が話し手のより強い気持ちを表す。

9-10 You can add an egg, butter, or corn to your ramen if you want. **Activity 2**

(1) add A to B

ここではラーメンへのトッピングを紹介するために用いられているが、他にもadd some fruits to the pancake「パンケーキにフルーツを乗せる」やadd some milk to the coffee「コーヒーにミルクを混ぜる」など、具材を加える表現として幅広く用いられるのでActivityで活用したい。

その他、If you add four to [and] six, you get 10. 「4足す6は10」のように加算の表現としても用いられる。

(2) an egg, butter, or corn

3つ以上の要素をorで並列させるときの原則はandの場合と同じなので、本文5行目の解説を参照。なお、

ここに挙がっている3つのトッピングのうちeggは加算名詞でbutterとcornは不可算名詞なので、不定冠詞のanはeggだけにかかっている。

(3) if you want

文法解説の①(2)で触れたとおり、if節は通例主節の前に置かれる。ただし話し言葉では、補足的な内容を加えたり、相手に対する気遣いを示す場合にif節が主節の後ろに置かれることがある (e.g. Please call me later, if you don't mind 「差し支えなければ、あとでお電話ください」)。

ここでは文末にif you wantと言うことで、「もし欲しければ、お好みで」という補足的な情報を追加している。



見本

解答・解説 (Before You Read・Practice・Round)

Before You Read

解答

③

Practice

解答

- ① My family often goes camping because we like it.
- ② I enjoy swimming in the sea because I like sea animals.
- ③ (例) I like curry noodles because I like spicy food.

Round 1

解答

②, ④

Round 2

解答

- 札幌ラーメンのスープ: warm
- 札幌ラーメンのほかの情報: topping
- 喜多方ラーメンのほかの情報: morning

Round 3

解答

- (下線: 地元のことを述べている語句)
- 札幌ラーメン: local sweet corn
- 喜多方ラーメン: water from mountains in the area
- (下線: 札幌ラーメンと喜多方ラーメンに共通していること)
- (例) Sapporo ramen and Kitakata ramen use local ingredients.
- (例) They use Japanese traditional seasoning for soup.

解説

設問の「地元のもの」を指している本文中の語句が、札幌ラーメンと喜多方ラーメンでそれぞれ異なることに注目させたい (local sweet corn, mountains in the area)。和文和訳とまではいかずとも、地元(=その地域)=the areaのように、和訳のとらえ方についてある程度柔軟な意識を持つよう指導したいところである。

また、ここでペアと話し合わせたい内容(ご当地グルメにはその地域のもが使われていること)は、このあと Unit Question について自分の考えをまとめたり、Unit Activity で発表内容を考える際に重要な情報となる。

訳例

日本のラーメンのいろいろな味

もしあなたが日本の食べ物に興味があるなら、ラーメンを忘れてはいけません！日本にはたくさんの種類のラーメンがあります。札幌ラーメン、喜多方ラーメン、博多ラーメンなどです。

北海道の札幌ラーメン

札幌ラーメンは味噌ベースのスープを使っています。スープが濃いのでラーメンが冷めないのです。そのため、北海道ではたくさんの人が寒い冬に食べます。おすすめのトッピングは地元のスイートコーンです！

福島の喜多方ラーメン

このラーメンは醤油ベースのスープを使っています。地元の製麺業者がその地域の山から流れてくる水を使って麺を作っています。その人たちはよく朝食にラーメンを食べるので、朝早く開店する店もあります。

発音

音調 (数字は本文の行数)

- 3-4 Sapporo ramen, Kitakata ramen, Hakata ramen, and so on. は「列挙」しているの、ピッチパターンは A ↗, B ↗, C ↗, and D ↘ となる。
- 4 and so on. は "so" を強く・高く読む。

語句の発音 (数字は本文の行数)

- 2 Japanese food の Japanese は、単独では最後の "ese" に強勢が置かれるが、次の food もアクセントを持つ。英語では「強・強」と強い音が続くのを嫌い、「強・弱・強・弱」というリズムに合わせるために、ここでは "Ja" の部分にアクセントを「移動」させている (rhythmic shift)。
- 7-8 in the cold winter の "in the" は、"in" の "n" で舌先を軽く噛み、続く "th" の発音に同化させる。「後退同化」(regressive assimilation) といい、英語では頻繁に生じる。12行目の in the area, in the morning も注意したい。

文法・語法解説

Key Sentences 7

I like Sapporo ramen **because** the soup is thick.
(**Because** the soup is thick, I like Sapporo ramen.)

①「理由」を表す節

理由を表す副詞節を導く接続詞でもっとも一般的なのが、ここで取り上げる because である。since や as など同種の接続詞と比べて強い因果関係を表し、文の中でもっとも伝えたい内容を表すことが多い。

because 節の1つの特徴は、Why ...? の疑問文に対して単独で(つまり、主節を省いて)答えの文となる点である (e.g. Why is he absent? — Because he is sick. 「なぜ彼は休んでいるのですか」「病気だからです」)。この場合を除いて、because 節を単独で用いることはできない。

② because 節の位置

ここまでに学習している if や when と同様に、文法的には主節の前後いずれにも置ける。どちらがより適切であるかは、文脈の中で判断する必要がある (Grammar for Communication 2 の解説を参照)。because 節を前置した場合は、主節との間をコンマで区切るのが普通

だが、後置した場合には、基本文のようにコンマを打たないほうが一般的である。

本文 (数字は本文の行数)

- 2 If you're interested in Japanese food, don't forget ramen!
- (1) be interested in
- もともと interested は動詞 interest 「興味を持たせる」の過去分詞であるが、すでに形容詞化している。be interested in で「…に興味がある」という定形表現として覚えておけばよい。
- なお、関連表現の interesting (Book 1 Unit 3 で既出) が [p.24] で用いられている。interesting が興味の対象について述べるのに対し、**be interested in** の主語は興味を抱く人となる点に注意したい。
- (2) don't forget ramen!
- Don't forget ...! は、大事なものを忘れさせないものに言及して「…を忘れてはいけません」という表現。

3-4 There are many kinds of ramen in Japan: Sapporo ramen, Kitakata ramen, Hakata ramen, and so on.

Part 1 では味噌や醤油など、ラーメンの「味」を指すのに flavor を用いていたが、ここでは喜多方や博多

など、広い意味での「種類」を表すのに kind という語を使っている。

... kind(s) of Aは「…種類のA」。manyをともなっているため複数形の kinds となる。ofに続く名詞は〈kind of 単数名詞〉または〈kinds of 複数名詞〉のように kind の単複と呼応することが多いが、ここでは外来語の ramen が後続するため単数形となっている。

コロンの用法については、Part 1の3-5行目の解説を参照。

6 Sapporo ramen uses a *miso*-based soup.

Activity 3

(1) soupの冠詞a

一般的に soup は不可算名詞なので不定冠詞 a は不要であるが、不可算名詞でも種類を意識するときは加算扱いとなることがある。ラーメンのスープには味噌ベースのほか、10行目で紹介される醤油ベース、さらに鶏ガラベースなど、いくつかの種類がある。ここでは、それらの区別を意識した上で「(ほかとは違って)味噌ベース」といっているので、soup が不定冠詞 a をともなっているのである。

(2) -based

さまざまな名詞と複合して「…に基づく、…を主な成分 [材料] とする」という意味を表す (e.g. evidence-based medicine 「エビデンス (証拠) に基づく医療」)。

Activity では、tomato-based sauce「トマトベースのソース」や kelp-based soup stock「昆布からとっただし汁」のように、基本の味を決める素材とともに用いるなどして自己表現につなげたい。

6-7 It stays warm because the soup is thick.

Language Focus

(1) stay warm

〈stay + 形容詞/名詞/前置詞句〉で「…のままである」という意味を表す (e.g. stay awake 「起きている」、stay in shape 「健康でいる」)。stay に後続する要素は補語の扱いとなる。

(2) the soup is thick

形容詞 thick の中心義は「(物が) 分厚い、厚手の」であるが、その他にも「(液体・霧などが) 濃い」、「(指・首などが) 太い」、「(文字・線などが) 肉太の」、「(茂み・群衆が) 密集した」などの意味を表す。これらに共通しているのは、構成要素の密度が高く、体積や容積が多いために目立っているイメージである。

7-8 So, many people there enjoy it in the cold winter. Activity 3

there は副詞であるが、ここでは名詞を後ろから修飾しており、many people there で「北海道の人たち」を指している。また、代名詞 it は Sapporo ramen を指している。

Activity ではこの文を活用することもできる。Some people in Shimane enjoy zenzai on New Year's Day. 「島根県では元日にぜんざいを食べるところがある」のような表現をすることができる。

8 The recommended topping is local sweet corn!

recommended は「おすすめの」という意味で、topping を修飾している。本来は動詞 recommend 「勧める」の過去分詞であるが、recommend が未修なので、形容詞として扱ってあげよう。

10-12 Local noodle manufacturers make the noodles with water from mountains in the area.

複数の前置詞句が含まれているために、1文がやや長くなっているので注意したい。in the area が mountains を修飾し、さらに from mountains が water を修飾しているため、「その地域の山から流れてくる水」と訳される。

このような例に慣れ親しんで英語の後置修飾の感覚を身につけておくと、3年で分詞の形容詞的用法や関係代名詞が出てきたときに役に立つだろう。

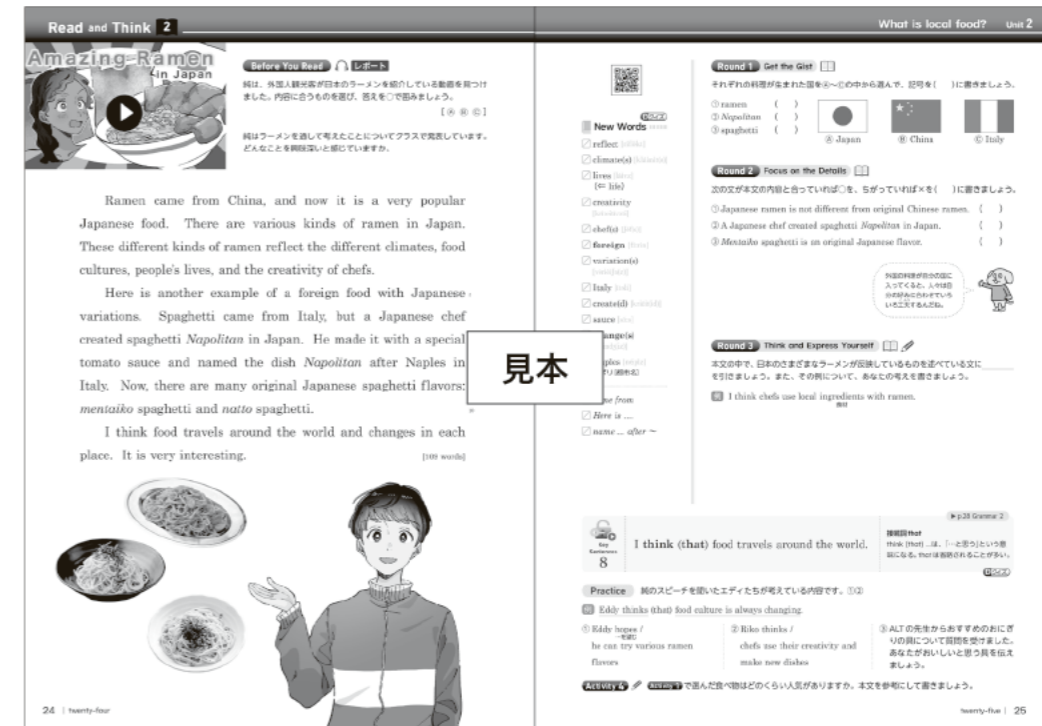
このページのQRコンテンツはこちら



Read and Think 2 [pp.24-25]

本文の場面・状況

純がラーメンについて考えたことをクラスで発表している。



見本

解答・解説 (Before You Read・Practice・Round)

Before You Read

解答

①

Practice

解答

- ① Eddy hopes (that) he can try various ramen flavors.
- ② Riko thinks (that) chefs use their creativity and make new dishes.
- ③ (例) I think (that) umeboshi is good for rice balls.

Round 1

解答

- ① (B) ② (A) ③ (C)

Round 2

解答

- ① ×
- ② ○
- ③ ○

Round 3

解答

(下線)

These different kinds of ramen reflect the different climates, food cultures, people's lives, and the creativity of chefs.

(考え)

(例) 豆腐みそラーメン (茨城県): I think that the idea of tofu-miso ramen came from *miso* soup.

解説

下線を引いた箇所では挙げられている要素 (気候、食文化など) をそのまま表現の手がかりとさせたい。QRコードや学習者デジタル教科書から見られるデジタルマップでは、都道府県の特産品や名物料理について調べることができ、こちらも参考になるだろう。

訳例

ラーメンは中国発祥ですが、今ではとても人気のある日本の食べ物です。日本にはいろいろな種類のラーメンがあります。異なる種類のラーメンは、さまざまな気候や食文化、人々の生活、そして料理人の創造性を映し出しています。

ここに、日本で変化した外国料理のもう1つの例があります。スパゲッティはイタリア発祥ですが、ある日本人シェフが日本でナポリタンスパゲッティを創作しました。彼は特製のトマトソースを使ってそれを作り、その料理をイタリアのナポリにちなんでナポリタンと名づけたのです。今ではたくさんの独創的な日本のスパゲッティの味があります。明太子スパゲッティや納豆スパゲッティです。

食べ物は世界中をめぐる、それぞれの場所では変化すると思います。とても興味深いです。

発音

音調 (数字は本文の行数)

2 Japanese foodの強勢位置に注目したい。Read and Think 1では、リズム調整のため“Ja”に強勢を移動していると述べたが、ここでは「日本(人)の」の部分に強勢を移動するために、リズム移動せずに“ese”を強く発音し、“Japanese”を強調している。6行目のJapanese chefも同様。

3 different climates, food cultures, people's lives, and ...も「列挙」で、基本的なピッチパターンはA↗, B↗, C↗, and D↘となる。

語句の発音 (数字は本文の行数)

6 Italyはカタカナ発音では「イタリア」だが、正しい英語の発音では、はじめの“T”に第一アクセントが来る。

11 changeの“a”の部分は二重母音の[eɪ]なので、「チェンジ」ではなく「チェインジ」と発音すること。

文法・語法解説

Key Sentences 8

I think (that) food travels around the world.

① 文の名詞化(名詞節)

ここまでは接続詞whenやifやbecauseを使った副詞節を学んだが、このページでは接続詞thatを用いた名詞節を導入する。副詞節が時や条件、理由などの情報を主節の外側に付け加えるのに対し、名詞節は文の中で目的語(O)や主語(S)として文の骨格(=必須要素)を構成する。

thatが導く名詞節にはいろいろな働きがあるが、ここでは動詞の目的語となる場合のみを扱う。代表的な動詞としてthinkを取り上げ、代入練習でhopeを追加する。なお、特に口語ではこれらの動詞に続くthatは省略されることが多い。

② 動詞の目的語と名詞節

that節を目的語にとる動詞であっても(代)名詞を目的語にとれるとは限らない。例えば、think/hopeは*I'm thinking it. / *I hope his success.とすることはできず、I'm thinking of it. 「そのことを考えています」 / I hope for his success. 「彼の成功を願っています」などとする必要がある。

③ 時制の一致

英語には「時制の一致」の規則があり、I thinkが過去形になると、それに合わせてthat節の時制も変化する(Part 1のwhenの解説も参照)。ここでは本文もPracticeも主節の動詞が現在形のものに限っているが、このあと[p.75]でJun thought Eddy's presentation was not interesting. という文を、[p.85]のLet's Read 2の本文ではShe hoped he was doing well. のような文を扱っている。

本文 (数字は本文の行数)

1-2 **Ramen came from China, and now it is a very popular Japanese food.**

Activity 4

come fromは「…の出身である、…から来ている」という意味を表す。I come from Japan. 「私は日本の出身です」のように人について述べるだけでなく、この文のように事物の由来についても用いることができる。

また、Ramen is very popular with [among] the Japanese. 「ラーメンは日本人にとっても人気がある」のように、形容詞popularを用いて「…に人気がある」という場合には、前置詞としてwithまたはamongを用いる。

この文をベースに、ActivityではTapioca milk

tea came from Taiwan, and now it is very popular among Japanese young people. 「タピオカミルクティーは台湾発祥ですが、今では日本の若者にとっても人気があります」のように表現できる。

3-4 **These different kinds of ramen reflect the different climates, food cultures, people's lives, and the creativity of chefs.**

動詞reflectは、「(物事・考えなど)を反映する」という意味を表し、プレゼンテーションや意見文でよく使われる表現である。ここでは、主語の中心となる語がramenではなくkindsであるため、複数形で一致してreflectとなっている。

また、livesは名詞lifeの複数形で、[laɪvz]と発音される。動詞liveの三人称単数現在形[lɪvz]と同じ綴りであるが、直前に所有格のpeople'sがあることからlivesが名詞であることがわかる。

5-6 **Here is another example of a foreign food with Japanese variations.**

Here is [are] は相手の注意を引いて「ここに…があります [います]」というために用いる表現。There is [are] が具体的な場所に言及せず、単に「…があります [います]」というのに対し、Here is [are] は場所を「ここ」に限定しているという違いがある。

また、名詞variationは「変化、変種」という意味で、日本語でも外来語の「バリエーション」として定着している。ここでは「日本で変化した外国料理」と訳している。

7-9 **He made it with a special tomato sauce and named the dish Napolitan after Naples in Italy.**

(1) name ... after ~

Unit 1では〈call A+B〉「AをBと呼ぶ」という第5文型を導入したが、「名づける」を表す動詞nameも同じ構文で用いられる。さらに「～にちなんで」というafter句をとることもよって、call A+B+after C「CにちなんでAをBと名づける」というかなり複雑な構文となっている。生徒にとってはやや難易度が高いと思われるので、Unit 1の学習を思い出させながら丁寧に解説したいところである。

(2) Naples in Italy

日本語では「ナポリ」「イタリア」というが、英語では発音が異なる(さらに、Naplesとその形容詞形Napolitanのaの発音の違いにも注意)。他に日本語と

英語で言い方が異なる地名や国名としては、ウィーン(Vienna)、ベネチア(Venice)、フィレンツェ(Florence)、北京(Beijing)、ドイツ(Germany)、オランダ(the Netherlands)などがある。

12 **It is very interesting.**

代名詞itは前文のfood travels around the world and changes in each place.を指している。このように、名詞句ではなく節全体を指し示すitの用法はここが初出なので、注意を促して指導したいポイントである。

① 単元のGOAL

好きな食べ物について、理由や考えと共に紹介することができる。

Unit Activity 「イチオシのご当地グルメを紹介しよう」

② 評価規準例

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|----------------|--|--|---|
| 聞くこと | <p>知識 接続詞 when, if, because, that を用いた文の意味を理解している。</p> <p>技能 接続詞 when, if, because, that などの理解をもとに、時や条件、理由や考え・意見などを伝えるスピーチや対話の内容を聞き取る技能を身につけている。</p> | <p>どんなときに何をするかや、何かをする際の条件を知るために、時間の流れなどについて話されるスピーチや対話の概要を捉えている。</p> | <p>どんなときに何をするかや、何かをする際の条件を知るために、時間の流れなどについて話されるスピーチや対話の概要を捉えようとしている。</p> |
| 読むこと | <p>知識 接続詞 when, if, because, that を用いた文の形・意味を理解している。</p> <p>技能 接続詞 when, if, because, that などの理解をもとに、食べ物の紹介や変化について書かれた文章の内容を読み取る技能を身につけている。</p> | <p>料理や食文化の歴史や変化について理解するために、日本や外国の料理などについて書かれた文章の概要を捉えている。</p> | <p>料理や食文化の歴史や変化について理解するために、日本や外国の料理などについて書かれた文章の概要を捉えようとしている。</p> |
| 話すこと [やり取り] | <p>知識 接続詞 when, if, because, that を用いた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>技能 ある時や条件ですることや理由や考え・意見について、接続詞などを用いて伝える技能を身につけている。</p> | <p>おたがいについてよりよく知るために、普段していることや好きな食べ物などについて伝え合っている。</p> | <p>おたがいについてよりよく知るために、普段していることや好きな食べ物などについて伝え合おうとしている。</p> |
| 話すこと [発表] | <p>知識 接続詞 when, if, because, that を用いた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>技能 時や条件、理由や考え・意見などについて、接続詞などを用いて話す技能を身につけている。</p> | <p>さまざまな料理について読んだ内容を伝えるために、料理の歴史や変化について知った情報や考えを話している。</p> | <p>さまざまな料理について読んだ内容を伝えるために、料理の歴史や変化について知った情報や考えを話そうとしている。</p> |
| 書くこと | <p>知識 接続詞 when, if, because, that を用いた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>技能 ある時や条件ですることや理由や考え・意見について、接続詞などを用いて書く技能を身につけている。</p> | <p>ALTの先生のために、ご当地グルメについて、その料理の情報やイチオシの理由について整理し、自分の考えや意見などを加えて、簡単な語句や文を用いて書いている。</p> <p>Unit Activity</p> | <p>ALTの先生のために、ご当地グルメについて、その料理の情報やイチオシの理由について整理し、自分の考えや意見などを加えて、簡単な語句や文を用いて書こうとしている。</p> <p>Unit Activity</p> |

③ 単元の指導と評価の計画例 (8時間)

| 時間 | パート | ねらい(■)・主な言語活動(丸数字) | 評価の方法 |
|--------|----------------------|--|-----------------------------|
| 1 | 扉 / Preview / Part 1 | <p>■どんなときに何をするかを伝え合うために、普段していることや好きな食べ物などについて伝え合うことができる。</p> <p>①Unit Question「What is local food?」について考えを伝え合う。</p> <p>②大好きな食べ物や地元の食べ物について共有する。</p> <p>③Previewについて伝え合う。</p> <p>④ラーメンと聞いて思い浮かべることを伝え合う。</p> <p>⑤特に好きな食べ物について伝える。</p> | 活動の観察 WS (ワークシート) |
| 2 | Part 2 | <p>■ある条件のもとですることを伝え合うために、したいと思っていることや好きな食べ物などについて伝え合うことができる。</p> <p>①好みのラーメンについて伝え合う。</p> <p>②週末、天候によって何をするかを伝え合う。</p> <p>③特に好きな食べ物について、どんな食べ方ができるか伝え合う。</p> | 活動の観察 WS (ワークシート) |
| 3 4 | Read and Think 1 | <p>■さまざまな料理について理解を深めたり、知っていることを伝えたりするために、料理について書かれた文章から事実や考え、理由などを読み取ったり、自分から伝えたりすることができる。</p> <p>①本文の内容について考えを伝え合う。([p.23] Round 3)</p> <p>②好きな食べ物とその理由を伝え合う。</p> <p>③特に好きな食べ物について、具材やよく食べる季節を伝える。</p> | 活動の観察 WS (ワークシート) |
| 5 6 | Read and Think 2 | <p>■料理や食文化の歴史や変化について理解するために、日本や外国の料理などについて書かれた文章の概要を捉えたり、自分の考えを話したり書いたりすることができる。</p> <p>①本文の内容についての考えを書く。([p.25] Round 3)</p> <p>②ALTの先生におすすめのおにぎりの具を伝える。</p> <p>③特に好きな食べ物について、どのくらい人気があるかを書く。</p> | 活動の観察 WS (ワークシート) |
| 7 8 | Unit Activity | <p>■ALTの先生のために、ご当地グルメについて、その料理の情報やイチオシの理由について整理し、自分の考えや意見などを加えて、簡単な語句や文を用いて書くことができる。</p> <p>①ご当地グルメの情報を伝え合う。</p> <p>②ご当地グルメを紹介する記事を書き、その内容を伝え合う。</p> <p>③Unit Question「What is local food?」についての考えを書いてまとめる。</p> | 活動の観察 WS (ワークシート) 成果物 |

④ 各時の指導展開例

QR
入る

デジタルブック
はこちら

QR
入る

各種WS(ワークシート)
のダウンロードはこちら

第1時 扉 / Preview / Part 1 [pp.19-20]

- 本時の目標 どんなときに何をすることを伝え合うために、普段していることや好きな食べ物などについて伝え合うことができる。
- 言語材料 接続詞 when

| 分 | 学習活動 | 生徒の活動 | 教師の支援と発問例 | デジタルブックの教材例と対応WS |
|----|---|---|---|--|
| 2 | Greetings | ・あいさつする。 | ・あいさつする。 | |
| 7 | 題材導入とUnit Questionの提示 ゴールの活動 (Unit Activity) の確認 | ・ [p19] の写真を見ながら教師の話の聞き、問いかけに回答する。 ・ Unit Questionについて自分なりの考えを思考する。 ・ 自分の地元の食べ物について再確認する。 | ・ [p.19] の写真を見せながら、題材を導入し、What is local food?と問いかける。 ・ 生徒からの反応が薄い場合はlocalという単語の意味を考えさせる。 例：What is the famous food in ...? | PC Activity WS [A2U21] 上記のコードからダウンロード可能。 |
| 7 | Key Sentencesの使用場面の提示 | ・ Previewアニメを見ながら、わかったことをメモする。 ・ 内容について教師と英語でやり取りを行い、whenなどの接続詞の使い方に気づく。 | ・ Previewのイラストで本単元の場面設定を提示する。 ・ 対話を聞きながら、わかったことをメモするように指示する。 ・ 内容について生徒と英語でやり取りを行う。 例：What did Eddy find when he went to Jun's house? | PC Previewアニメ 授業用WS [J2U21] オーラルイントロダクション&やり取りの台本付き。 |
| 18 | 本文の内容理解 Key Sentencesの確認 | ・ オーラルイントロダクションを聞く。 ・ T-Fクイズに答える。 ・ 解説動画を視聴する。 ・ Practiceに取り組む。 ・ 質問に答えたり好みのラーメンについて伝えたりする。 ・ 言った文を書く。 | ・ 本文について口頭導入を行う。 ・ T-Fクイズで、本文の内容理解について確認する。 ・ 解説動画を流し、生徒にwhenの使い方などに気づかせる。 ・ Practiceに取り組ませる。 ・ 生徒にラーメンについて尋ねる。 例：When you go to a ramen restaurant, what kind of ramen do you order? ・ 言った文を書かせる。 ・ 適時補充問題を与える。 | ストーリー・スライド 授業用WS [J2U21] TF 音声 Key Sentences解説動画 補充問題 |
| 10 | 新出語句の導入 発音練習 音読 | ・ 教師のモデルをまねて、新出語句の発音練習を行う。 ・ 教科書を見ながら音声を聞く。 ・ 教師の後について、本文の音読練習を行う。 ・ 音声の後について、本文の音読練習を行う。 | ・ フラッシュカードで新出語句を提示して、発音モデルを示す。 ・ 教科書を開本させ、本文の音声を流す。 ・ 本文の一斉読みをさせる。 ・ 本文の音声を流す。 ・ 本文の個人読みをさせる。 ・ 机間指導で個別指導をする。 | FC 音声 (単語WS) [T2U21] (音読WS) [O2U21] |
| 5 | Activity 1 | ・ Activity 1に取り組む。 | ・ 机間指導で個別指導をする。 | Activity WS [A2U21] |
| 1 | Greetings | ・あいさつする。 | ・あいさつする。 | |

第2時 Part 2 [p.21]

- 本時の目標 ある条件のもとですることを伝え合うために、したいと思っていることや好きな食べ物などについて伝え合うことができる。
- 言語材料 接続詞 if

| 分 | 学習活動 | 生徒の活動 | 教師の支援と発問例 | デジタルブックの教材例と対応WS |
|----|---|---|--|---|
| 2 | Greetings | ・あいさつする。 | ・あいさつする。 | |
| 10 | 前時の復習 | ・ Part 1の内容を聞く。 ・ 英語での質問に答える。 | ・ Part 1を聞かせる。 ・ 本文について口頭で確認する。 例： ・ What is Anna talking about? ・ What kind of ramen does Anna always order? ・ What kind of flavors are there in Japan? ・ フラッシュカードで語句の発音練習をさせる。 ・ Part 1の音読練習を行う。 | 音声 QA |
| 20 | 本文の内容理解 Key Sentencesの使用場面の提示と確認 | ・ オーラルイントロダクションを聞く。 ・ 教科書を見ながら音声を聞く。 ・ T-Fクイズに答える。 ・ 解説動画を視聴する。 ・ Practiceに取り組む。 ・ 質問に答える。 ・ 言った文を書く。 | ・ 本文について口頭導入を行う。 ・ 本文の音声を流す。 ・ T-Fクイズで、本文の内容理解について確認する。 ・ 解説動画を流し、生徒にifの使い方などに気づかせる。 ・ Practiceに取り組ませる。 ・ 生徒に「もしも…」の質問をする。 例： ・ If you have time, what do you want to do? ・ If it's sunny tomorrow, what do you want to do? ・ 言った文を書かせる。 ・ 適時補充問題を与える。 | ストーリー・スライド 音声 授業用WS [J2U22] TF Key Sentences解説動画 補充問題 if節と主節の文の順をまちがう生徒が多いので注意する。 |
| 10 | 新出語句の導入 発音練習 音読 | ・ 教師のモデルをまねて、新出語句の発音練習を行う。 ・ 教科書を見ながら音声を聞く。 ・ 教師の後について、本文の音読練習を行う。 ・ 音声の後について、本文の音読練習を行う。 | ・ フラッシュカードで新出語句を提示して、発音モデルを示す。 ・ 教科書を開本させ、本文の音声を流す。 ・ 本文の一斉読みをさせる。 ・ 本文の音声を流す。 ・ 本文の個人読みをさせる。 ・ 机間指導で個別指導をする。 | FC 音声 (単語WS) [T2U22] (音読WS) [O2U22] |
| 6 | Activity 2 | ・ Activity 2に取り組む。 | ・ 机間指導で個別指導をする。 ・ Activity 1で表現した内容とつなげて、ペアで伝え合うように指示する。 | Activity WS [A2U21] |
| 2 | Greetings | ・あいさつする。 | ・あいさつする。 | |

第3時 Read and Think 1 その1 [pp.22-23]



デジタルブック
はこちら



各種WS(ワークシート)
のダウンロードはこちら

●本時の目標 さまざまな料理について理解を深めたり、知っていることを伝えたりするために、料理について書かれた文章から事実や考え、理由などを読み取ったり、自分から伝えたりすることができる。

●言語材料 接続詞 because

| 分 | 学習活動 | 生徒の活動 | 教師の支援と発問例 | デジタルブックの教材例と対応WS |
|----|--|---|---|---|
| 2 | Greetings | ・あいさつする。 | ・あいさつする。 | |
| 10 | 前時の復習 | ・ Part 1 と 2 の内容を聞く。 ・ 英語での質問に答える。 ・ 語句の発音練習を行う。 ・ 本文の音読練習(一斉・個人) | ・ Part 1 と 2 を聞かせる。 ・ 本文について口頭で確認する。 例： ・ <u>Did Anna know miso ramen when she lived in London?</u> ・ <u>Where will Anna and Jun go next Sunday?</u> ・ フラッシュカードで語句の発音練習をさせる。 ・ Part 1 と 2 の音読練習を行う。 | 音声 QA FC 音声 |
| 3 | Before You Read | ・ 対話を聞き、内容に合う選択肢を選ぶ。 | ・ 対話を聞き、内容に合う選択肢を選ぶように指示する。 ・ これから読む本文の場面や状況について生徒と英語でやり取りを行う。 | 音声 授業用 WS [J2U23] |
| 20 | 本文の内容理解 本文の読解 (Round 1) 本文の読解 (Round 2) Key Sentences の使用場面の提示と確認 | ・ オーラルイントロダクションを聞く。 ・ Round 1 の設問を確認し、本文を読んでペアで確認する。 ・ Round 2 の設問を確認し、本文を読む。 ・ ペアで空所の答えを考える。 ・ 解説動画を視聴する。 ・ Practice に取り組む。 ・ 言った文を書く。 | ・ 本文について口頭導入を行う。 ・ Round 1 を考えさせる。 ・ 空所の答えを考えさせる。 ・ 答え合わせを行う。 ・ 解説動画を流し、生徒に because の使い方などに気づかせる。 ・ Practice に取り組ませる。 ・ 言った文を書かせる。 ・ 適時補充問題を与える。 | ストーリー・スライド 授業用 WS [J2U23] Round の設問を確認させて、目的意識を持って読解させるのがポイント。 Key Sentences 解説動画 補充問題 |
| 10 | 新出語句の導入 発音練習 音読 | ・ 教師のモデルをまねて、新出語句の発音練習を行う。 ・ 教科書を見ながら音声を聞く。 ・ 教師の後について、本文の音読練習を行う。 ・ 音声の後について、本文の音読練習を行う。 | ・ フラッシュカードで新出語句を提示して、発音モデルを示す。 ・ 教科書を開本させ、本文の音声を流す。 ・ 本文の一斉読みをさせる。 ・ 本文の音声を流す。 ・ 本文の個人読みをさせる。 ・ 机間指導で個別指導をする。 | FC 音声 (単語 WS) [T2U23] (音読 WS) [O2U23] |
| 4 | Language Focus | ・ thick の意味を調べる。 | ・ thick について意味を類推させ、調べさせる。 | |
| 1 | Greetings | ・あいさつする。 | ・あいさつする。 | |

第4時 Read and Think 1 その2 [pp.22-23]

●本時の目標 さまざまな料理について理解を深めたり、知っていることを伝えたりするために、料理について書かれた文章から事実や考え、理由などを読み取ったり、自分から伝えたりすることができる。

●言語材料 接続詞 because

| 分 | 学習活動 | 生徒の活動 | 教師の支援と発問例 | デジタルブックの教材例と対応WS |
|----|-----------------|---|---|--|
| 2 | Greetings | ・あいさつする。 | ・あいさつする。 | |
| 15 | 前時の復習 | ・ 語句の発音練習を行う。 ・ 英語での質問に答える。 ・ 本文の音読練習(一斉・個人) | ・ フラッシュカードで語句の発音練習をさせる。 ・ 本文について口頭で確認する。 ・ [p.22] の音読練習を行う。 | FC 音声 TF / QA 授業用 WS [J2U24] |
| 15 | 本文の読解 (Round 3) | ・ Round 3 の設問を確認する。 ・ 本文に下線を引く。 ・ ペアで伝え合う。 ・ 質問に答える。 | ・ 本文を黙読して、設問に合う本文に下線を引くように指示する。 ・ 生徒から考えが出ない場合は、「札幌ラーメンと喜多方ラーメンは何味かな。味噌と醤油ですね。これらは昔からある調味料ですね」などとヒントを与えてもよい。 ・ ペアで意見を伝え合わせる。 ・ 生徒に質問をする。教科書の写真の富山や博多のラーメンについても触れ、味のちがいや自分の好みなどについて質問する。 例： ・ <u>Do you know this ramen?</u> ・ <u>Why do you like ...?</u> ・ <u>What do they use?</u> | 授業用 WS [J2U24] |
| 17 | Activity 3 | ・ Activity 3 に取り組む。 ・ グループになり Activity 1 ~ 3 の内容をまとめて、自分の好きな食べ物について話す。 ・ 話した内容を英語で書かせる。 | ・ 机間指導で個別指導をする。 ・ Activity 1 ~ 3 までの内容について、グループで伝え合うように指示する。 ・ 教師が好きな食べ物について話しモデルを示す。 ・ 話し終わったグループには話したことを英文で書かせる。 | Activity WS [A2U21] |
| 1 | Greetings | ・あいさつする。 | ・あいさつする。 | |

第5時 Read and Think 2 その1 [pp.24-25]

QR
入る

デジタルブック
はこちら

QR
入る

各種WS(ワークシート)
のダウンロードはこちら

●本時の目標 料理や食文化の歴史や変化について理解するために、日本や外国の料理などについて書かれた文章の概要を捉えたり、自分の考えを話したり書いたりすることができる。

●言語材料 接続詞 that

| 分 | 学習活動 | 生徒の活動 | 教師の支援と発問例 | デジタルブックの教材例と対応WS |
|----|--|--|---|---|
| 2 | Greetings | ・あいさつする。 | ・あいさつする。 | |
| 10 | 前時の復習 | ・ Read and Think 1の内容を聞く。 ・ 英語での質問に答える。 ・ 語句の発音練習を行う。 ・ 本文の音読練習(一斉・個人) | ・ Read and Think 1を聞かせる。 ・ 本文について口頭で確認する。 ・ フラッシュカードで語句の発音練習をさせる。 ・ Read and Think 1の音読練習を行う。 | 音声 TF / QA FC 音声 |
| 3 | Before You Read | ・ 対話を聞き、内容に合う選択肢を選ぶ。 | ・ レポートを聞き、内容に合う選択肢を選ぶように指示する。 ・ これから読む本文の場面や状況について生徒と英語でやり取りを行う。 | 音声 授業用 WS [J2U25] |
| 20 | 本文の内容理解 本文の読解 (Round 1) 本文の読解 (Round 2) Key Sentences の使用場面の提示と確認 | ・ オーラルイントロダクションを聞く。 ・ Round 1の設問を確認し、本文を読んでペアで確認する。 ・ Round 2の設問を確認し、本文を読む。 ・ ペアで空所の答えを考える。 ・ 解説動画を視聴する。 ・ Practiceに取り組む。 ・ 言った文を書く。 | ・ 本文について口頭導入を行う。 ・ Round 1を考えさせる。 ・ 答えを考えさせる。 ・ 答え合わせを行う。 ・ 解説動画を流し、生徒にthatの使い方などに気づかせる。 ・ Practiceに取り組ませる。 ・ 言った文を書かせる。 ・ 適時補充問題を与える。 | ストーリー・スライド 授業用 WS [J2U25] Key Sentences 解説動画 補充問題 |
| 14 | 新出語句の導入 発音練習 音読 | ・ 教師のモデルをまねて、新出語句の発音練習を行う。 ・ 教科書を見ながら音声を聞く。 ・ 教師の後について、本文の音読練習を行う。 ・ 音声の後について、本文の音読練習を行う。 | ・ フラッシュカードで新出語句を提示して、発音モデルを示す。 ・ 教科書を開本させ、本文の音声を流す。 ・ 本文の一斉読みをさせる。 ・ 本文の音声を流す。 ・ 本文の個人読みをさせる。 ・ 机間指導で個別指導をする。 | FC 音声 (単語 WS) [T2U24] (音読 WS) [O2U24] |
| 1 | Greetings | ・あいさつする。 | ・あいさつする。 | |

第6時 Read and Think 2 その2 [pp.24-25]

●本時の目標 料理や食文化の歴史や変化について理解するために、日本や外国の料理などについて書かれた文章の概要を捉えたり、自分の考えを話したり書いたりすることができる。

●言語材料 接続詞 that

| 分 | 学習活動 | 生徒の活動 | 教師の支援と発問例 | デジタルブックの教材例と対応WS |
|----|-----------------|--|--|--|
| 2 | Greetings | ・あいさつする。 | ・あいさつする。 | |
| 15 | 前時の復習 | ・ 語句の発音練習を行う。 ・ 英語での質問に答える。 ・ 本文の音読練習(一斉・個人) | ・ フラッシュカードで語句の発音練習をさせる。 ・ 本文について口頭で確認する。 ・ 本文に関連する質問を投げかける。 例： ・ Spaghetti is from Italy. It's popular in Japan, too. What flavor do you like? ・ How about pizza? What kind of pizza do we have? ・ Curry and rice is a popular Japanese food. Where is curry come from? ・ [p.24]の音読練習を行う。 | FC 音声 TF / QA 授業用 WS [J2U26] |
| 15 | 本文の読解 (Round 3) | ・ Round 3の設問を確認する。 ・ 本文に下線を引く。 ・ 考えを書く。 | ・ 本文を黙読して、設問に合う本文に下線を引くように指示する。 ・ 考えを書くように指示する。 | 授業用 WS [J2U26] |
| 15 | Activity 4 | ・ Activity 4に取り組む。 ・ グループになりActivity 1～4の内容をまとめて、自分の好きな食べ物について話す。 ・ 話した内容を英語で書かせる。 | ・ 机間指導で個別指導をする。 ・ Activity 1～4までの内容について、グループで伝え合うように指示する。 ・ 教師が好きな食べ物について話しモデルを示す。 ・ 話し終わったグループには話したことを英文で書かせる。 | Activity WS [A2U21] |
| 2 | 次時の活動への指示 | ・ 次時の学習活動の確認。 | ・ 次時の学習活動の確認。 | |
| 1 | Greetings | ・あいさつする。 | ・あいさつする。 | |

第7時 Unit Activity その1 [p.26]

QR
入るデジタルブック
はこちらQR
入る各種WS(ワークシート)
のダウンロードはこちら

- 本時の目標 ALTの先生のために、ご当地グルメについて、その料理の情報やイチオシの理由について整理し、自分の考えや意見などを加えて、簡単な語句や文を用いて書くことができる。

| 分 | 学習活動 | 生徒の活動 | 教師の支援と発問例 | デジタルブックの教材例と対応WS |
|----|-----------|---|---|--|
| 2 | Greetings | ・あいさつする。 | ・あいさつする。 | |
| 10 | 活動の確認 | ・地元の食べ物について考える。 ・イチオシのご当地グルメをALTの先生に紹介する課題であることを確認する。 | ・地元の食べ物について尋ね、特徴などについて確認する。 例： ・What food is famous in ...? ・What food do you recommend? ・イチオシのご当地グルメをALTの先生に紹介する課題であることを確認させる。 | デジタルマップ Activity WS [A2U21] 各都道府県の名物についての情報を検索可能。 |
| 20 | STEP 1, 2 | ・博多ラーメンの例を確認する。 ・紹介したい食べ物についての情報をメモする。 ・友達に自分が紹介したい食べ物の情報を伝えたり、相手の情報にアドバイスをしたりする。 | ・博多ラーメンの例を見ながら、紹介文に必要な内容を確認する。 ・自分が紹介したい食べ物の情報をまとめさせる。 ・友達と情報を伝え合い、表現を見直すように指示する。 | Activity WS [A2U21] QRコンテンツの思考ツールを用いて、情報をまとめさせてもよい。 |
| 15 | STEP 3 | ・自分が紹介するグルメについての原稿を書く。 ・ペアで読み合って、相手の原稿にアドバイスをする。 | ・ペアで読み合わせる。 | Activity WS [A2U21] |
| 2 | 次時の確認 | | ・次時まで、原稿をブラッシュアップするように指示する。 | |
| 1 | Greetings | ・あいさつする。 | ・あいさつする。 | |

第8時 Unit Activity その2 [p.26]

- 本時の目標 ALTの先生のために、ご当地グルメについて、その料理の情報やイチオシの理由について整理し、自分の考えや意見などを加えて、簡単な語句や文を用いて書くことができる。

| 分 | 学習活動 | 生徒の活動 | 教師の支援と発問例 | デジタルブックの教材例と対応WS |
|----|---------------|---|--|------------------------|
| 2 | Greetings | ・あいさつする。 | ・あいさつする。 | |
| 30 | STEP 3 | ・グループになり、発表し合う。 ・友達の発表を聞いて、感想や質問をする。 ・教師の質問に答える。 ・ALTの感想を聞く。 | ・発表をするときのポイントを示す。 ・発表が終わったら、質問や感想を述べさせる。 ・生徒が知った情報を共有する。 ・全員の原稿をALTに渡す。 | Unit Activityサンプル動画 |
| 12 | Unit Question | ・Unit Questionについての考えをクラスで共有する。 ・Unit Questionについて考えて、自分の考えを書いてまとめる。 | ・質問をしながら、これまでの学習内容を振り返る。 ・共有した意見の中から自分の意見をまとめさせる。 ・[p.136]には、Unit Questionについて書いてまとめる際のコツ(Writing Tips)が掲載されているので生徒に参考にさせたい。 | (CAN-DO WS) [C2U21] |
| 5 | CAN-DOによる振り返り | ・本時の学習事項の確認。 ・単元全体の学習についての振り返りと自己評価を行う。 | ・本時の学習事項の確認。 ・単元全体の学習についての振り返りと自己評価を行わせる。 ・授業中に完成しない場合は宿題とする。 | (CAN-DO WS) [C2U21] |
| 1 | Greetings | ・あいさつする。 | ・あいさつする。 | |

デジタル用例辞典について

QR
入る

QRコンテンツの1つである用例辞典では、「言語の働き」と「日本語(訳)」、「英語」から、関連する教科書本文(3学年分)を検索できます。生徒の主体的な表現活動をサポートします。



Word Roomについて

QR
入る

QRコンテンツの1つであるWord Roomには、教科書巻末に掲載されている単語集(3学年分)を収録しています。ジャンル別になっているので、さまざまな表現活動で参考にできます。



↑音声付き

ラーメンの文化

●中国のラーメンと日本のラーメン

地域色も豊かで、味噌を用いた北海道の「札幌ラーメン」、醤油ベースで太麺を使った福島県の「喜多方ラーメン」、真っ黒いスープが特徴的な富山の「富山ブラックラーメン」、和風のちゃんぽんである滋賀県の「近江ちゃんぽん」、瀬戸内海の小魚や豚の背脂を用いた広島県の「尾道ラーメン」、豚骨スープと極細のストレート麺を使った福岡の「博多ラーメン」など、それぞれの土地柄を表したご当地ラーメンが各地で人気である。

●ご当地ラーメン

《札幌ラーメン》

スープは豚骨などをベースにした味噌味が主流となる。ニンニクや野菜のエキスが効いた濃厚でコクのある味わいが特徴。また、寒冷な気候からスープが冷めるのを防ぐために、表面にラードなどが浮かべられている。麺は中太で縮れている。加水率が高く熟成されているため腰が強く、野菜に負けない食感を持つ。具材としては、タマネギ・キャベツ・モヤシなどの炒めた野菜を載せるのが定番。

《喜多方ラーメン》

スープは豚骨、煮干しなどを使ったあっさり醤油味。麺は平打ちの縮れ麺で、幅が4mmと太い。平成の名水百選に選ばれている飯豊山系の地下水が使われており、通常の麺の加水率が30%前後なのに対し、40%を超える加水率となっている。このように多くの水分を含ませ、じっくりと寝かせた麺には独特のコシとモチモチ感がある。定番の具材はチャーシューとメンマ。

市内にラーメン店が100軒以上あるという喜多方は、ラーメン店の密度において日本一を争っているほどである。また、朝ご飯にラーメンを食べる「朝ラー」の文化が根付いており、朝早くからオープンしているラーメン店が多くある。早朝野球の後にラーメンを食べて仕事に行くという人も少なくない。

《富山ブラックラーメン》

スープが真っ黒いのが特徴で、その正体は濃い醤油と粗挽き黒胡椒。戦後復興のために働く肉体労働者のために、ご飯を主食にラーメンをおかずとして食べるスタイルが考案されたため、塩分の濃い味付けになっている。塩辛いスープで「いくらでもご飯が食べられる」と人気を博した。スープの味が濃いため、中太麺以上のしっかりした麺を合わせる事が多い。具材には、メンマ、海

苔、ネギなど通常のラーメンと変わらないものが使われる。

《近江ちゃんぽん》

長崎ちゃんぽんとは、スープ、麺、具材、調理法がいずれも異なる。

スープはかつお節や昆布などを使った魚介系。薄口しょうゆと合わせた和風の味付けになっている。麺はかんすいを使った通常の中華麺。具材は豚肉とキャベツ、人参、ニラ、きくらげなどの野菜で、魚介類は使わない。

また、長崎ちゃんぽんでは具材を炒めるのに対して、近江ちゃんぽんでは煮込んで調理される。途中でスープに酢を加えて味に変化をつけるのが定番の食べ方となっている。

《尾道ラーメン》

ハッキリとした定義はなく、店ごとの個性が大きいのが特徴。スープは鶏ガラと瀬戸内産のいりこのダシに醤油ダレを加えたものが一般的とされるが、その他の海産物や豚骨、野菜、昆布などからスープを取る店もある。麺は中細ストレートの平打ち麺が主流。具材にはチャーシュー、メンマなどがあるが、それに加えて豚の背脂のミンチが用いられることが多い。

《博多ラーメン》

豚骨からとった乳白色のスープが特徴的で、塩や薄口醤油と合わせられる。豚骨を強火で長時間煮込むことで、骨のコラーゲンなどが溶け出し、濁ったスープになる。麺は極細のストレート麺で、約100gと少なめ。注文の際に硬さを指定することができる。一般的な具材はチャーシューや万能ネギで、テーブルに置いてある辛子高菜、紅ショウガ、ゴマを好みに合わせてトッピングする。

スープを残し、そこに追加注文した麺を入れて食べる「替え玉」というシステムがあるのも博多ラーメンの特徴である。

ラーメンの歴史

●中国の麺の起源

「麺はどこで発明されたのか?」という問いに対する答えは諸説ある。現在発見されている最も古い麺は、中国青海省の遺跡で見つかったもので、約4000年前のものだ。このことから、中国の麺はイタリアや中東よりも古く、夏(前2070-前1600年頃)の時代には存在していた可能性がある。ちなみに、今日の麺の多くが小麦から作られているのに対して、当時の麺はアワやキビから

作られていた。

麺に関する最古の記録は、後漢(25-220年)の書籍に見られる。また、南北朝(439-589年)の550年頃に書かれた農書・食物大全には、「小麦粉をよくふるい、冷めた肉の煮汁でよくこね、箸の太さほどの棒状にし、水を張った器の中で、指でもみ押さえながら引き伸ばす」と麺の作り方についての具体的な記述もある。

当初、麺は一部の特権階級のものだったが、唐(618-907年)になると華北で小麦の栽培が盛んになり、華北の民衆の間でも普及していった。南宋(1127-1279年)では、華南にも麺食の習慣が普及し、当時の華南では米が食されていたことから、米の麺が作られるようになった。元(1271-1368年)に入ってから、綿棒で生地を伸ばして包丁で切った切麺が登場し、小麦粉以外の穀類を麺にすることが容易になったことから、小麦の生産量が少なかった華南やその他の地域でも、ご当地麺が発達していったと考えられる。

●中国から日本へ

日本最古の中国麺に関しては、1488年に「経帯麺」という料理を調理し来客にふるまったとする文献が残っている。そこには「経帯麺」には小麦粉とかん水を使うと書かれている。

一方で、日本で最初に中華麺を食べた歴史上の人物は徳川光圀だと言われる。1659年に明の儒学者である朱舜水が水戸藩に招かれ、中華麺を光圀のために作ったと推測される記録がある。

江戸末期になって、横浜、神戸、長崎、函館などが開港し、多くの外国人が移り住んだことから、海外から食文化が流入し、中華麺を含めた中国料理が日本国内に広がる下地ができた。明治になって1870年には、日本初の中国料理店が横浜の居留地に登場している。

その後、1884年には、函館にあった「養和軒」という中華料理屋のメニューに「南京そば」という料理が見られる。当時の函館新聞にはその広告が出され、大正まで提供していたようであるが、この「養和軒」の「南京そば」が今のラーメンにつながる食べ物であるかは不明である。

1910年、尾崎貫一が横浜中華街から12名の中国人料理人を招いて、東京の浅草に日本人向けの庶民的な中華料理店「来々軒」を開店した。「南京そば」「支那そば」などと呼ばれた当時のラーメンをメインに出した店であった。このラーメンは値段が手頃だったこともあり、大人気となり、連日行列ができたという。中国の麺料理と日本の食文化が融合して誕生した日本初のラーメン店だとされる。「来々軒」によるラーメンブームを受けて、第二次世界大戦前には庶民的な中華料理店が続々と開店

し、他の中華料理と共にラーメンも定番のメニューとして認知されるようになった。

また、戦後は中国大陸から引き揚げてきた人々によるラーメン屋台も多く出現した。安くて美味しいラーメンは、戦後の物資が乏しい時代に適した食べ物であった。その後、日本のラーメンには様々なアレンジが加えられていき、ご当地ラーメンも多く登場するなどして、日本独特の麺料理へと発展していった。

●インスタントラーメンの誕生

1958年(昭和33年)、安藤百福によって日本初のインスタントラーメン「チキンラーメン」が発売された。誰もがどこでも手軽に食べられるインスタントラーメンは発売と共に瞬く間に人気となり、それまで使われていた「中華そば」という言葉に代わって「ラーメン」という名が広く使われるきっかけにもなった。

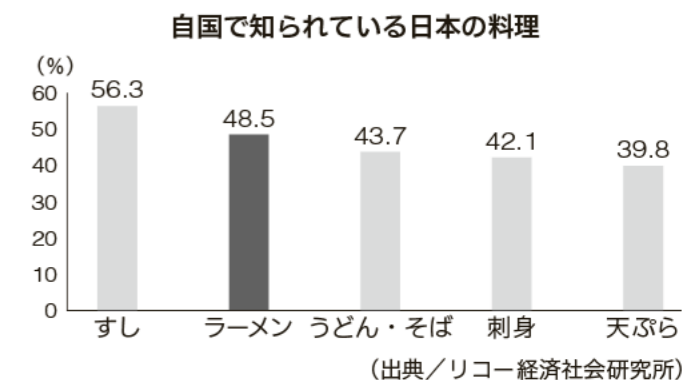
1971(昭和46)年には、発泡スチロール製の縦長カップに味つけ麺と凍結乾燥したエビ、豚肉、卵、野菜などの具を添えたカップ入りのインスタントラーメンが誕生。1973年にはアメリカ進出を果たし、その後も国や地域の嗜好に合わせ、ブラジル、シンガポール、香港、インド、オランダ、ドイツ、タイなどに進出した。

インスタントラーメンの世界的な人気は今日でも広がり続けており、1990年に150億食程度と推定された年間総需要が、2023年には1,212億食へと増加している。消費量の1位は中国の450.7億食で、2位はインドネシア、3位はベトナム、4位はインド、日本は5位で、上位15カ国のうち10カ国がアジア諸国となっている。

また、一人あたりの年間消費量の1位はベトナムで、インスタントラーメンが朝食や夜食として食べられている。2位の韓国では、インスタントラーメンが飲食店や屋台でも食べられている。3位はタイ、4位はネパールと続き、日本は6位に入っている。

●海外に広がるラーメンの人気

訪日外国人に対して実施した調査によると、「自国で知られている日本の料理」のトップは「すし」、次いで「ラーメン」「うどん・そば」という結果になった。代表



的な日本食というイメージが強い「刺身」や「天ぷら」を抜いて、ラーメンが2位にランクインしており、その認知率も48.5パーセントと半数に迫る。

今やラーメンは、海外ですしに次いでよく知られている日本食となっていることが次の表からわかる。

日本でアレンジされたその他の麺料理

《ナポリタン》

イタリア料理が初めて日本に紹介されたのは明治初期。それ以降、日本人は数々の“イタリア風洋食”を生み出してきた。ナポリタンはその代表格と言える。茹でたスパゲッティ、玉ねぎ、ピーマン、ハムをトマトケチャップで炒めるナポリタンは、イタリアのナポリにちなんで名づけられているが、本国にはない日本独自の創作料理。伝統的なイタリア料理には、トマトケチャップを使ったり茹でたスパゲッティを油で炒めたりするレシピは見当たらない。

この料理の考案者は、戦後GHQに接収されていた横浜のホテル「ホテルニューグランド」の2代目総料理長、入江茂忠だといわれている。具材は玉ねぎ、ピーマン、ハム、マッシュルームで、ソースはトマトケチャップではなく、生のトマトを使って作られた。ナポリタンのルーツは、当時横浜で米兵たちが食べていたケチャップをかけたスパゲッティで、それに物足りなさを感じた入江が本格的な西洋料理の知識を生かして具材やソースを改良し、完成させたという。

ナポリタンのスパゲッティと言えば柔らかい太い麺が特徴だが、これは軍の配給品だったスパゲッティが、イタリアのような硬質のデュラム小麦を使ったものではなく軟質なものであったことに由来している。

その後、横浜の洋食店「センターグリル」の初代店長、石橋豊吉が、ホテルニューグランドのナポリタンを庶民的にアレンジした料理を生み出した。このナポリタンは、1928年に発売された初の国産スパゲッティである太い麺をゆでて一晩寝かせたものに、玉ねぎ、ピーマン、ロースハム、トマトケチャップを加えて油で炒め、パルメザンチーズをかけるという、現在食べられているナポリタンの姿をしている。

ナポリタンは、昭和30年代頃から喫茶店などの定番メニューとして日本各地で爆発的に広まったが、日本人の生活水準が向上するにつれて衰退した。しかし近年その懐かしい味が見直され、新たに専門店もオープンするなど人気を集めている。海外でも日本のナポリタンが知られるようになったが、そのつづりはナポリ（イタリア語のつづりでNapoli）とは結びつかない「Naporitan」と紹介されることが多く、日本独自の料理として認識さ

れている。

《明太子スパゲティ》

「明太子スパゲティ」は「たらこスパゲッティ」から派生したものである。たらこスパゲティは、1960年代半ば、東京都渋谷のスパゲッティ専門店「壁の穴」の店主であった成松孝安によって考案された。きっかけとなったのは、常連客から提案されたキャビアを載せたスパゲッティ。しかしキャビアは高級食材であるため、安く手に入る代替品として、たらこを用いて作られるようになったという。

《納豆スパゲティ》

同じく「壁の穴」の店主によるオリジナルメニューから普及した和風スパゲティのひとつ。着想は、高松宮殿下が納豆にオリーブやパセリを刻んでご飯にかけて食べると聞いたことによる。

「壁の穴」は現在も営業しており、イクラやシラスを使ったスパゲッティなど、さまざまな和風スパゲッティを提供し続けている。

海外と日本食

●海外で人気の日本食

海外で日本食レストランと呼ばれる店は2006年には約2.4万店、2021年には約15.9万店、2023年には約18.7万店と増え続けている。

中でも中国は大都市だけでなく地方都市にまで日本料理店の出店が進み、2013年の時点で約1万店だったものが、2019年には約6万5千店に達し、6年間で6倍以上の増加を見せた。2023年には7万8千店を超えたと推定される。中国国内の日本料理店の数はアメリカを抜き、世界第1位となっている。日本食がこれほど中国人に浸透した理由として、2019年には年間960万人にまで増加していた訪日中国人観光客がSNSに投稿したことや、日本食を扱ったドラマなどが、中国の若い世代に強い影響を与えたことが考えられる。

日本食レストランの店舗数の推移

| 国、地域 | 2023年の店舗数 | 2021年からの推移 |
|-------|-----------|-----------------|
| ロシア | 約3,200店 | 約3,100店から横ばい |
| 中南米 | 約12,900店 | 約6,100店から約2倍 |
| 中東 | 約1,300店 | 約1,300店から横ばい |
| 北米 | 約28,600店 | 約31,200店から約1割減 |
| 欧州 | 約16,200店 | 約13,300店から約2割増 |
| アフリカ | 約690店 | 約700店から横ばい |
| オセアニア | 約2,500店 | 約2,500店から横ばい |
| アジア | 約122,000店 | 約100,900店から約2割増 |

(出典/農林水産省)